

令和3年度実績評価についての評価会議委員意見とその対応

全般事項

	主な取組	事業名	達成指標	意見・質問等	委員名	回答
1				<p>【資料1】IV今後の進め方について、達成指標と成果指標の結果を基本的に同列に評価したうえで、5項目の評価がされています。しかし、両者の性格の違いやタイムラグの存在を考えると、両者を同等・同時に評価することは望ましいとは言えない可能性があります。達成指標はアウトプットの進捗が中心になりますので比較的容易に設定できますが、成果指標はビジョンや長期計画との関係を踏まえてアウトカムをどのように位置づけるかが問われます。また、成果や効果が現れるタイムラグを考えると、単年度ごとの評価が果たして適切なのかも問われます。中間的な見込評価や、中計最終年度の総括評価として行う等の工夫が必要に思います。評価の仕組みに関する改善を重ねてきたことを高く評価したうえで、その成果としてこれらの課題が明確になってきているのではないのでしょうか。</p>	B 委員	<p>前計画では、達成指標(アウトプット)を拾い上げる成果指標(アウトカム)として評価を行いました。双方の関係性に相関がないものが多くなっていました。この点を改善するため、現計画では達成指標と成果指標を個別のものとして同列に扱い、これらを踏まえた直近の見通しとして今後の進め方を評価しております。</p> <p>委員の御指摘のとおり成果は事業進捗以外の影響も受け、また事業の結果がすぐに反映されるものではないことから、成果指標はより長期的かつ包括的なものとしても扱えるため、5か年の総括としても使えるように策定当初に設定しております。</p> <p>委員の御意見を踏まえ、今後5か年の進捗管理及び評価を行っていく中でより良い評価方法を研究し、次期計画に活かせるように取り組んでまいります。</p>
2				<p>【資料2】基本目標1及び3について、達成指標では主要施策の評価が複数の主な取組の平均ポイントによって包括的に評価されていますが、成果指標は複数の指標が単独で評価されており包括的な評価はなされていません。そのうえで、今後の進め方では、主要施策ごと包括して評価・判断されています。これらの整合性を確保する観点からは、成果指標についても主要施策の包括評価を行うことが望ましいのではないかと考えます。</p>	B 委員	<p>現計画の達成指標では様々な事業を扱うため、点数化することでシステムティックな評価を行えるようになったと考えている一方、成果指標は項目を絞ったため点数化の必要はないと考えております。</p> <p>成果指標は5か年の総括としても扱うことを考えており位置付けが難しいところですが、委員の御指摘を踏まえ、次期計画策定に向け、検討を重ねてまいります。</p>

	主な 取組	事業名	達成指標	意見・質問等	委員名	回答
3				<p>各取組における目標未達の理由として、外生的な要因が個別に説明されています。具体的には、コロナ禍、入札不調、半導体等の原材料不足、関係者調整などですが、これらは企業局が直接にコントロールすることが困難な外生的な要因です。一方で、こうした要因が継続または常態化している場合には、そうした外部環境の変化を与件化して適切に適応していくことが求められてもいます。代替策の模索や取組の見直しなどになりますが、これらについて個別の取組ごとに判断、対応するだけでなく、戦略的な事業運営として課題を整理し対応を予め明確にしておく必要があるように思います。</p>	B 委員	<p>外部要因についてはコントロールができませんが、予見可能であるものはそれを計画の中に内包しております。例えば、新型コロナウイルス感染症の拡大に対して、対面でない形のプロモーションや研修を行ったり、入札不調に対して、新たな契約手法の検討などを行ったりしております。</p> <p>よって、評価が下がった事業もありますが、これらの原因分析を進め、進捗管理や次期計画への反映を検討してまいります。</p>

1 「強靱」な水道の構築

(1) 安定給水の確保

主な取組	事業名	達成指標	意見・質問等	委員名	回答	
4	① 浄・給水場等の更新・整備	浄・給水場等の非常用自家発電設備、燃料用タンクの整備	自家発電設備の増強施設数	(ウ)「浄・給水場等の非常用自家発電設備、燃料用タンクの整備」における木下の自家発電工事の入札不調について、原因の分析はこれからとのことですが、ある程度予測されている原因があれば教えてください。仮に外的要因(コロナ禍による世界的な資材不足や原油価格高騰など)が主要な原因である場合、原因が直ちに解消されるとは思われず、さらに円安の影響も懸念される R4 年度に、工事を進めるための特別かつ具体的な策はあるのでしょうか。災害時対応の観点から迅速な対応が求められる事案であるため、お伺いします。	C 委員	要因としてコロナ禍における資材不足や労働力不足が推測されます。このため1件で発注する予定だった当該木下取水場自家発電棟外建築工事を2件に分割することで施工可能であると考えております。
5		鑄鉄管更新工事	小中口径管の更新延長	令和3年から令和7年度までの計画が80km/年と一定になっていますが、これは毎年のキャパシティ(技術的、財政的)の関係から80km程度が上限であることからそのように設定しているのか、あるいは最終的な目標値があって、それを一定年数で除して均等化して設定しているのかのどちらでしょうか。以下、同じような計画設定がされている事業があります。	D 委員	中期経営計画の最終年度である令和7年度末までに管路全体の耐震化率を30%まで向上させることを目標としており、これを達成するための延長を設定しています。
6	② 管路の更新・整備	大口径管路更新工事(一拡栗山～船高線他)	大口径管路更新の実施	大口径管路の更新について、5件中2件の工事着手にとどまったとすることで、評価区分としては「進展していない」という評価になっているが、これは計画の5件に対して4割の事業進捗があり、残りは外的要因によって達成できなかったという認識でよいか。	A 委員	委員御指摘のとおり、工事着手に至らなかった3件については、入札不調や、工事に支障となる他企業管の切廻し工事の調整に時間を要し施工時期を延ばしたことによるものです。
7		基幹管路の整備(第二木下～柏井導水管)	基幹管路の整備の推進	基幹管路の整備について、実績が「第6・7工区の実施設計業務委託の着手」となっており、計画にある「第3工区の実施設計業務委託」の進捗が分からないため、この第3工区について完成度を示して欲しい。	A 委員	「第3工区の実施設計業務委託」は、大口径管路を国道464号や、北総鉄道の下に布設することから、道路管理者や鉄道管理者等と、埋設位置などに係る協議に時間を要しており、結果として各工程にも遅れが生じ年度内完成には至りませんでした。令和3年度末の業務進捗は約90パーセントとなっています。引き続き、印西市など関係機関との協議を継続し、業務完成に向けて取り組んでまいります。

(2) 災害に強い施設整備の推進

	主な取組	事業名	達成指標	意見・質問等	委員名	回答
8	① 浄・給水場等の耐震化の推進	印旛取水場～柏井浄水場間の調圧水槽の耐震化/船橋給水場配水池の耐震化	設備耐震化工事の実施	実施状況の遅れを踏まえ昨年度末に計画の変更を行ったとのことだが、今後の進捗管理はこの変更済みの計画に沿って進めていくということでしょうか。	A 委員	お見込みのとおりです。変更済みの計画に沿って、令和6年度末の工事完了に向け、進捗管理を行っていきます。
9				令和7年度には耐震化事業が計画されていませんが、令和6年度の事業完了を持って、企業局の浄・給水場等の耐震化には目処が付くという認識でよろしいでしょうか。	D 委員	令和6年度の事業完了をもって耐震化していない残りの施設は、木下取水場3号沈砂池及び同4号沈砂池の2施設となりますが、木下取水場は令和8年度以降に全体の更新を検討しております。
10	② 管路の耐震化の推進	鋳鉄管更新工事	湾岸埋立地域の管路更新延長	上記「(1)-②管路の更新・整備」と同様です。26.5km/年の捉え方についてご教示ください。	D 委員	中期経営計画の最終年度である令和7年度末までに 湾岸埋立地域における管路 (※)の耐震化率を70%まで向上させることを目標としており、これを達成するための延長を設定しています。 <small>(※)委員意見を受けて修正</small>

(3) 危機管理体制の充実

	主な取組	事業名	達成指標	意見・質問等	委員名	回答
11	② 給水区域内11市等関係機関との連携強化	給水区域内各市との合同訓練の実施	給水区域内各市との合同訓練の実施	給水区域内各市との合同訓練を年11回開催するということだが、これは全ての市が集まって行う訓練なのか。	A 委員	全ての市が一堂に集まって行う訓練ではありません。当局と給水区域内各市が、同日に個別に訓練を実施しているものです。
12				成果指標として掲げられている「各種訓練等の実施率」は、成果指標というよりは達成指標とすべきではないでしょうか。	B 委員	施策(3)のもう一つの成果指標として「緊急時における給水体制」がありますが、こういった災害等の緊急時には実践的な訓練の実施が成果を発揮するところであり、ひいては「各種訓練等の実施率」が成果指標としての側面を持つと考えております。 委員の御指摘を踏まえ、より適切な指標について、引き続き研究してまいります。

2 「安全」な水の供給

(4) 安全な水づくり

	主な取組	事業名	達成指標	意見・質問等	委員名	回答
13	③ 水質管理の徹底	水質検査機器の更新	水質検査機器の更新の実施	水質検査機器の更新について、世界的な半導体不足の影響という外的要因によって一部機器の調達が年度内に出来なかったようだが、評価は計画の 21 台に対して 13 台の更新として「未達成だが進展している」と評点から定量的な評価を下しているということでしょうか。	A 委員	お見込みのとおりです。
14		水質自動監視装置の更新	水質自動監視装置の更新の実施	実施状況に併せて昨年度末に計画の変更を行ったとのことだが、今後の進捗管理はこの変更済みの計画に沿って進めていくということでしょうか。	A 委員	お見込みのとおりです。
15		貯水槽水道の適正管理と直結給水の促進	貯水槽水道の適正管理啓発実施率、直結給水率	「貯水槽水道の適正管理と直結給水の促進」について、企業局としては最終的には直結率 100%を目指しているのでしょうか。	D 委員	ストック機能が必要なホテル・病院・大型店舗などについては貯水槽水道が望ましいことから、全てを直結給水化することを目指すものではありません。 引き続き、貯水槽水道の規模や使用状況に応じて直結給水化を促進してまいります。

(5) おいしい水の供給

	主な取組	事業名	達成指標	意見・質問等	委員名	回答
16	① 技術的な取組 おいしい水の	残留塩素低減化試験の実施	残留塩素の低減化試験等の実施	残留塩素低減化試験とは具体的にはどのようなことを行ったのか。	A 委員	本試験は残留塩素の低減を行う前に、浄・給水場で注入する塩素注入量を一時的に減らし、配水区域末端の残留塩素濃度を連続的に測定することで、水道水の安全性が確保されていることを確認するものです。 具体的には、柏井浄水場及び園生給水場の配水区域において、夏と冬にそれぞれ約 2 週間残留塩素等を測定しました。なお、測定結果に基づき残留塩素濃度の低減量を検討します。

3 お客様からの「信頼」の確保

(6) お客様サービスの向上

	主な取組	事業名	達成指標	意見・質問等	委員名	回答
17	② 「お客様の声」を活かした事業運営	アンケート調査の実施	アンケート情報収集割合	新型コロナウイルス感染症の影響という外的要因によってアンケートが一部実施できなかったようだが、実績は「進展していない」と評点から定量的な評価を下しているということによいか。	A 委員	お見込みのとおりです。
18		災害時における適切な情報発信	—	災害時における適切な情報発信は非常に重要なことだと思うので、より詳細な情報があれば積極的に発信していただきたい。	A 委員	ホームページやツイッターでの発信方法を改善してまいります。
19				②の達成指標は、一般的に「広聴」に区分される取組といえますが、成果指標に掲げられている「県水だより」「ホームページ」は基本的に「広報」に区分されますので、両者の直接的な関係が分かりにくいように思います。一方で、施策全体を代表するものとしては「お客様サービス満足度」がありますので、場合によってはこれに一本化することもありうるのではないかと考えます。	B 委員	成果指標は広報に対する満足度を掲げていますが、満足度は広聴(アンケート)による結果であり、広報と広聴は切り離せない関係となっています。 これら成果指標の設定は、次期計画に向けて引き続き検討してまいります。

(7) 大規模事業体の責務と社会貢献

	主な取組	事業名	達成指標	意見・質問等	委員名	回答
20	③ 国際貢献及び他事業体への技術支援	水道技術研修の開放による技術支援	県内水道事業体へ開放する研修講座数	「水道技術研修の開放による技術支援」について、計画4講座に対して実績3講座ということで、「未達成だが進展している」という評価になっています。他にも達成指標が未達の事業はありますが、「概ね達成している」との評価がほとんどです。両評価の使い分けに関する考え方についてご教示ください。	D 委員	資料1の「主な事業」の評価に示す通り、数値目標があるものについてはその達成度で評価を行っています。 この場合は、 $3/4=75\%$ なので「未達成だが進展している」となっています。
21				成果指標として「二酸化炭素排出量削減」のみが掲げられていますが、主な取組として性格の異なる3つの項目が示されています。これらの成果指標を「二酸化炭素排出量削減」に代表させられるのかが問われます。	B 委員	現計画では達成指標と成果指標を切り離して評価を行っており、施策全体を包含するものとなっていない部分があります。 施策(7)は別組織の事業が関わっており、当局単独では成果を出すのが難しいものもあることから、現在の成果指標のみとしています。

(8) 運営基盤の強化

	主な取組	事業名	達成指標	意見・質問等	委員名	回答
22	② ICTや民間活力の活用による業務の効率化	ICT(情報通信技術)等の活用による業務の効率化に向けた検討	ICT(情報通信技術)等の活用による業務の効率化に向けた検討	「ICT(情報通信技術)等の活用による業務の効率化に向けた検討」について、令和7年度までの計画が「検討の実施」となっています。ずっと検討の実施を継続するのでしょうか。また、何を検討するのでしょうか。	D 委員	目標は毎年度の検討となりますが、その中で出てきた取組については実施し、事業の実施状況として報告してまいります。
23	③ システムの安定運用及びセキュリティ対策の強化	情報システム及びネットワークの整備	情報システム等の整備件数	この取組の令和3年から令和7年までの計画値はそれぞれ18件、13件、6件、2件、5件とバラつきがあります。これは別途、システム整備計画といったものが策定されており、当該計画に基づいた計画値という理解でよろしいでしょうか。	D 委員	お見込みのとおりです。中期経営計画の策定にあたり、別途、各システムの機器更新等の時期を照会し、年度ごとのシステム整備計画を整理しており、これを基に計画値を設定しております。
24	④ 健全経営の推進	経費の削減	経費の削減	「経費の削減」について、経費削減額の実績値は計算されていますでしょうか。「経費の削減」を事業として取り上げ、計画を設定するのであれば、経費の削減額等、何らかの数値目標が設定されるべきだと思いますがいかがでしょうか。	D 委員	経費の削減については、一括調達や工事発注の大型化など、実際の効果額の判定が難しいものとなっています。また、費用が減ることはコスト削減のみならず、工事の遅延などによっても生じてしまうため、数値化された評価が必ずしも妥当ではないと考えております。 しかしながら、昨今の厳しい財政状況の中で経費の削減については計画で触れるべきものであるため、実施状況の報告として記載しております。
25				達成指標では、人材の育成・確保、業務効率化、システムの安定運用とセキュリティ、健全経営の4項目が掲げられていますが、成果指標においては2つの財務指標のみとなっています。とくに人材の確保・育成は今後の重要課題ですので、成果指標の設定が望まれます。	B 委員	委員の御指摘を踏まえ、次期計画の策定に向け、人材育成についての指標を出せないか検討してまいります。 なお、水道事業として職員の確保・育成は大きな課題の一つとなっておりますが、確保面での指標については県の組織としての一面が強いため、設定を断念した経緯があります。